ラベル上に明記した標本（日向霧島 4 Aug. 1882 J. Matsumura TI）（Fig. 2）を中井は *acutiformis* と同定してもいる．しかし，以後の混乱を避けるためにヒロハアカガシで統一するのがよいと思われる．

終わりに，所蔵標本を調べさせていただいた東京大学総合研究博物館ハーバリウム（TI）および国立科学博物館ハーバリウム（TNS）にお礼申し上げます．

引用文献

福岡県高等学校生物研究部会 1975．福岡県植物誌．博洋社，福岡．
初島住彦 2004．九州植物目録．鹿児島大学総合研究博物館研究報告 No. 1．鹿児島大学総合研究博物館，鹿児島．
北村四郎，村田 源 1979．原色日本植物図鑑 木本編 II．保育社，大阪．
牧野富太郎，根本莞爾．1931．訂正増補日本植物総覧．春陽堂，東京．
松村任三 1900．改正増補植物名彙．丸善，東京．
Nakai T. 1927a. Notulae ad plantas Japoniae & Koreae. XXXIV. Bot. Mag. Tokyo **41**: 501–522.
中井猛之進 1927b．日鮮植物管見第三十四の解．Bot. Mag. Tokyo **41**: 528–536.
—— 1939．日本産ノくりがし属植物並ニ常緑かし類ニ就イテ（其一）．植物研究雑誌 **15**: 185–204.
大井次三郎．1953．日本植物誌．至文堂，東京．
Ohwi J. 1965a. Flora of Japan, English ed. Smithsonian Institution, Washington DC.
大井次三郎 1965b．改訂新版日本植物誌顕花篇．至文堂，東京．
——（著）・北川政夫（改訂）1992．新日本植物誌顕花篇．至文堂，東京．
大場秀章 1989．ブナ科．佐竹義輔，原寛，亘理俊次，富成忠夫（編），日本の野生植物．木本 I. pp. 66–78．平凡社，東京．
大橋広好，佐々木 豊，大橋一晶 2006．アカガシの分布．植物研究雑誌 **81**: 000–000.
杉本順一 1961．日本樹木総検索誌．六月社，大阪．
—— 1972．新日本樹木総検索誌．井上書店，東京．

（[a]東北大学植物園津田記念館，[b]大阪大学大学院薬学研究科分子生物学分野）

Syo KUROKAWA: **Two New Names in *Parmotrema* (Parmeliaceae)**
ウメノキゴケ属の2新名（黒川 逍）

Blanco et al. (2005) recently reduced four genera, *Canomaculina, Concamerella, Parmelaria* and *Rimelia*, to synonyms of *Parmotrema*, based on the results of molecular analyses on parmotremoid lichens. As a consequence, they proposed 19 new combinations under *Parmotrema*. Unfortunately, however, two of them are later homonyms under the genus and new names are necessary and proposed below.

Parmotrema neopustulatum Kurok., nom. nov.

Rimelia pustulata Elix & Bawingan in Mycotaxon **81**: 252 (2002) – *Parmotrema pustulatum* (Elix & Bawingan) O. Blanco, A. Crespo, Divakar, Elix & Lumbsch in Mycologia **97**: 157 (2005), non *Parmotrema pustulatum* Louwhoff & Elix in Mycotaxon **75**: 199 (2000).

Parmotrema neosticticum Kurok., nom. nov.

Rimelia stictica Louwhoff & Elix in Mycotaxon **68**: 452 (1998) – *Parmotrema sticticum* (Louwhoff & Elix) O. Blanco, A. Crespo, Divakar, Elix & Lumbsch in Mycologia **97**: 158 (2005), non *Parmotrema sticticum* (Duby) M. Choisy in Bull. Mens. Soc. Linn., Lyon **21**: 176 (1952), ut *sticticaum*.

Literature cited

Blanco A., Crespo A., Divakar, P. K. Elix J. A. and Lumbsch H. T. 2005. Molecular phylogeny of parmotremoid lichens (Ascomycota, Parmeliaceae). Mycologia **97**: 150–159.

広義のウメノキゴケ属は40近くの属に分けられたことがあるが，最近の分子系統学的な解析による属の統廃合が，このところ活発に行われている．その一環として，Blanco ほか（2005）は *Canomaculina*（オオマツゲゴケ属），*Concamerella*，*Parmelaria*，*Rimelia*（マツゲゴケ属）を *Parmotrema*（ウメノキゴケ属）のシノニムとし，*Parmotrema* へ移した場合の19の新組み合わせを提唱した．ここに示された属の統合は，形態や化学成分の研究においても同じような結論が示唆されていたので，納得のゆくものであるが，提唱された新組み合わせの中に，命名規約上使えないものがあるので，それらに対して新名を提唱した．

(Botanical Gardens of Toyama
富山県中央植物園)

新　刊

□豊橋市自然史博物館：**標本をつくろう　植物・菌類編**　61 pp．2005．¥400＋送料¥210．A 5 版．同館．ISBN: 4-924906-17-4．

豊橋市自然史博物館ガイドブックとした標本作りの手引き書である．各地の博物館や標本関係者の協力を得たもので，説明はイラストや写真を多用したわかり易い記述で，初級，中級，上級とレベルに応じて選択できるようになっている．押し葉ばかりでなく，種子，果実，葉脈，原色押し花，ラミネート標本などについても触れられている．採集番号を付ける必要性が重複標本や台帳との関係で述べられているが，もう少し突っ込んで，押し葉では表現できない形や性質の記録を勧めたらよかったと思う．ラベルの記述が標本の価値を左右すること，植物名は必須条件ではないこと，年月日の記述を誤解の余地のないようにすること，産地のローマ字書き併用，マウントする必要はないことなど，大事な指導である．また産地の位置記録に経緯度を「ぜひ書くようにするとよい」と勧めている一方，流行の国土基準メッシュには触れていないのは一つの見識と思う．水草，海藻，きのこ，変形菌類，コケ，地衣の標本製作についても記述されている．入手には同博物館（441-3147 豊橋市大岩町大穴 1-238．tel. 0532-41-4747）に現金400円と切手210円を現金書留で送ること．こうすると書留の送料は 510円である．

（金井弘夫）

□大場秀章：**大場秀章著作選 II　植物分類学・植物地理生態学**　443＋43 pp．2006．¥4,800．A 5 版．八坂書房．ISBN: 4-89694-789-4．

選集 I は文化史にかかわる話題だったので、通して読めたが、この II では 1．極限に生きる植物，2．生態系の保全と植物学，3．日本の自然と植物の多様性，4．植物の分類と生物地理と分かれていて，著者の40年にわたるさまざまな年代の作品が集成されているので，通読するよりは拾い読みの方が適しているかも知れない．1．ではヒマラヤをはじめ各大陸の高山帯の植物についての知見，2．では環境の変動に伴う野生植物の保護の現状と方策，3．では日本の植物的自然のあり様，4．ではいくつかの分類群についての見解とその手法についての論考が集められている．主要著作一覧として和文129，欧文111 編の著作，論文が挙げられており，これで「主要」なのだから，著者の多才ぶりに驚かされる．初出一覧，事項索引，植物名索引がある．

（金井弘夫）

□大場秀章（著）・冨山　稔（写真）：**ヒマラヤの青いケシ**　223 pp．2006．¥3,400．A 5 版．山と渓谷社．ISBN: 4-635-22999-8．

Meconopsis の全種を網羅した和文のモノグラフである．前半はメコノプシスの生育環境，発見の歴史と，それを演じたプラントハンターの物語りで，著者の得意とする人間関係の描写で読ませる．後半は分類体系と検索表および種ごとの記述に当てられている．大